

■ 「技術資料（素案）」に対する学識者ヒアリング結果とその対応

氏名	意見等	意見に対する対応
中村先生	▶ 技術資料の中でも一部触れているが、生物の移動を阻害するものの設置はしない方がよい。	・ P2-4 2.3.2 (1) 2)基本構造及び P2-5 (2) 2)基本構造部分にのり止め工は可能な限り設置しないことを記述している。
	▶ 6 節浅場効果の把握においては、これまでのモニタリングとの整合性を考え、具体的な内容とすべきである。	・ P6-1【解説】の文章をモニタリングの種類・手法やその実施頻度等の考え方を追記した。
	▶ モニタリングについては、「場所毎に実施する必要のあるもの」、「浄化機能などのメカニズムを把握するもの」に分けて整理した方がよい。	・ P6-1 表 6.1.1 にモニタリング手法の項目を追加し、調査頻度等がこれまでのモニタリングと整合が図れるよう注釈を記述した。
	▶ 維持管理のモニタリングと効果の評価のモニタリングは意味が分かりにくいいため、維持管理については監視や巡視といった言葉にした方がよい。	・ P5-1～P5-4 の 5 節維持管理に関するモニタリングにおいて、「モニタリング」ということ言葉を「巡視・監視」に修正した。
	▶ 基盤の安定度に関するモニタリングは、陸上からの定点写真撮影等も有効であるが、ラジコンヘリ等で空中写真等を撮影し、評価することも有効な手段と考える。	・ 新たなモニタリング手法として今後検討する。
淀江先生	▶ のり止め工は設置しない方がよい。ドイツの河川工法で突堤を複数設置し、浅場を安定させる工法がある。突堤を長くすれば対応できるのではないか。	・ P2-4 2.3.2 (1) 2)基本構造及び P2-5 (2) 2)基本構造部分にのり止め工は可能な限り設置しないことを記述している。 ・ P4-6 4.3 砂浜整備の設計【解説】(2)施設配置部分で、突堤工は設置する場所の特性や養浜形状に応じて、養浜工が安定できる長さや突堤数を設定することを記述している。
	▶ 効果の把握の箇所では、ナゴヤサナエのモニタリング等の現在実施している具体的なモニタリングを記述すべきである。	・ P6-1 表 6.1.1 にナゴヤサナエ及び鳥類のモニタリングを追記した。
	▶ 浅場整備により、ヨシ帯等が出来れば水生昆虫との有効な生息場となるといった効果がある。このような記述もあってもよい。	・ P2-2 【解説】2.2.2 の生物環境改善機能の部分で、「浅場を創出することで、生物の生息場が創出され、失われた魚類の産卵場や稚貝の生息場、昆虫の生息場など様々な生物の住み場としての機能が創出され、生物多様性が確保される。」に修文した。
國井先生	▶ 「2.2 の浅場の多面的な機能」の部分で、生物環境改善機能の中に「生物多様性を確保する」という意味の 1 文を入れてほしい。	・ P5-2 5 節 5.1.1(2)【砂浜整備】部分で、養浜砂を補充するという維持管理を記述している。
	▶ 維持管理においては、砂の流出した箇所は、具体的には砂を補充するということか。	・ P3-4 図 3.2.2 の注釈を「岸から湖に向かって〇〇へ移動と修正した。
	▶ 図 3.2.2 の図中のコメントは、「湖岸に向かって」ではなく「岸から湖に向いて」の方がよい。	・ P2-5 2.3.2(2)1)及び 2)部分に植栽工に関する記述を追記した。 ・ P4-12 4.4.1(1)(2)部分に植栽工に関する記述を追記した。 ・ P4-17 4.4.6 として植栽工の設計の項を追加した。また、この中で、「植栽工は基盤が安定した後に実施することが望ましい」ことを記述した。
	▶ 植栽については今後実施しないのか。するのであれば記述すべきである。植栽については、時期が問題で、施工直後に実施するのではなく、基盤が安定した後に実施した方がよい。	

■ 「技術資料（素案）」に対する学識者ヒアリング結果とその対応

氏名	意見等	意見に対する対応
松見先生	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 構造物の設置は、なるべく目立たない施設とすることを明確にすべきではないか。図面も水面から大きく出さないといった表現にしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2-4 2.3.2 部分に、「小規模で目立たない施設」という記述を追記した。 ・ P2-4 図 2.3.2、P4-6 図 4.3.1、P4-9 図 4.3.6、を構造物が水面に出ないように修正した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 面的防護の考え方をういていることを明記すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2-4 2.3.2(1) 1)に「これらの施設を面的に配置することにより砂浜を創出する。」という文章を追記した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 維持管理の部分が課題で、特に維持管理に到る基準をどうするのかを明確にする必要がある。この基準は、機能とリンクするものであり、壊れたから直すといった発想ではない。（この部分は難しいが、今後明らかにしていく必要がある。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P5-4 5.2【解説】部分に、維持管理を実施する判断基準は、浅場の機能が維持されることを基本として設定すること、判断基準となる具体的な指標は明確ではないが、今後浅場機能のモニタリングを実施する中で検討を進めるといった内容の文章を追記した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 基準については、今後のモニタリングから導き出すとしてはどうか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 整備箇所の機能が保全されているのであれば維持管理の必要性はないといった考えで良いと思う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 設計についても、治水施設ではないため、「性能設計」といった考え方で機能・性能が確保できればより簡易な施設で良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の浅場整備については性能設計の考え方であるが、P2-4 2.3.2 部分に、「浅場整備の目的を達成する性能を有した小規模な目立たない施設設置」という文章を追記し、性能設計であることを明確にした。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 植栽をどうするのか。植栽を行うのであれば、その手法も明記すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2-5 2.3.2(2)1)及び2)部分に植栽工に関する記述を追記した。 ・ P4-12 4.4.1(1)(2)部分に植栽工に関する記述を追記した。 ・ P4-17 4.4.6 として植栽工の設計の項を追加した。 	
佐藤先生	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 浅場とは、どういう環境のことか定義が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2-1 2.1【解説】部分に、2.1.1 浅場の定義を追記した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 過去に失われた環境が、どういう原因でなくなったのかという分析と、それに対する対策という観点がないように思える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P2-1 2.1【解説】部分に、2.1.2 浅場の目的の項を追記し、現在記述している埋め立て等の要因に加え、河川からの供給土砂減少により自然な浅場を形成・維持することが困難であることを明記し、その対策として浅場整備が必要であることを追記した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 植生（ヨシ）は自然活着することが確認されたので、植栽しなくても良い旨を記載しておいた方が良い。その上で、より早く植生を活着させる方法として、植栽手法と、そのメリット・デメリットを記載しておいた方が良い。一般の人は、子どもがヨシを植えていたという認識しかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P4-17 4.4.6 部分に、基盤整備後自然な植生繁茂が確認されているため基本的には植栽は実施しないことを明記した。 ・ P4-17 表に植栽工法の概要とメリット、デメリットを記述した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゴミの堆積（打ち上げ）や土砂堆積等の維持管理が必要な場所は予測がつくと思うので、それを見越して、搬出用の車輛通路等も予め整備しておいた方が良いのではないかと。実際には船からの搬出は不効率である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P5-3 5.1.2 維持管理の実施手順の部分に、維持管理頻度が高いと予測できる場所では、簡易な維持管理用の施設整備も考えられることを記述した。
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ヨシの枯死体を除去しなければ負荷軽減にならないということを明記するとともに、それであれば、どうやってヨシを除去するか仕組みが必要。ボランティア活動には限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P5-2(3)の【植生帯整備】部分に、ヨシ等の枯死体の管理という記述を追記した。 ・ P5-3 5.1.2【解説】部分に、今後維持管理を実施する仕組みづくりが課題であり、検討していくことを記述した。